

SNSの光と影

泉中学校 二年 姫野 夢菜

現代の人々にとって必要不可欠な存在であるインターネット。その中の「SNS」(ソーシャルネットワークワーキングサービス)は私も毎日のように使用しています。SNSは、世界中の人達とつながりを持てたり、自分が知りたい情報をいち早く知れたりするといった皆さんの利点を持っています。例えば災害が起きたときに自分が住んでいる地域の情報を得たり、連絡を取り合ったりする場として役立っています。さらに、好きな芸能人・アーティストについてや、興味・関心のあるものについて簡単にチェックでき、便利なツールとして多くの人に利用されています。

その反面、SNSが原因でいじめや誹謗中傷が起きてしまうことがあります。インターネットが幅広い世代に普及している今、誰もが気軽に自分の思いや考えを書き込める環境が整っているため、感情や意図が直接伝わらずに誤解や勘違いが生じやすい面があります。そのため、インターネット上の誹謗中傷がとても大きな社会問題となっています。

このような誹謗中傷はなぜ起きてしまうのでしょうか。チャットアプリやネットへのコメントでは、表情・声音が伝わらないため、相手を送ってきた言葉を受け取る際に自分の解釈や感情が反映されることがあります。これが原因で本来の意図とは異なる捉え方をしてしまい、対立や不和が生じてしまいます。

このようなコミュニケーションの食い違いが、誹謗中傷などの問題を引き起こす一因となることがあると私は思います。一例として、ある人が素直で悪気のないコメントを書いたつもりでも、相手には攻撃的に受け取られることがあります。また、匿名性であることも誹謗中傷を助長する要因となっていると考えられます。とくに最近、テレビなどで活躍している人たちのSNS上にたくさんの悪質なコメントや誹謗中傷が原因で自ら命を絶ってしまったという悲しいニュースをよく耳にするようになりました。身元を隠して行うコメントは、責任感や配慮が薄れることで、他人を傷つける行動が増える可能性もあります。「顔が見えていないから悪口を書き込んでも良いだろう」「みんな自分と同じように思っている」などという安易な考えが、一人の人生を変えてしまうこともあるという事を理解しなければならぬのです。

私が実際に経験した中では、友達とLINEでやり取りをしていたとき、相手が言ってきた言葉に対し、忙しかったので「うん」とだけ返信したら相手に「怒ってるの?」と勘違いされてしまいました。私はそんなつもりで言ったわけではないのに相手には自分で思っていたこ

とは違う感情で捉えられてしまったのです。もしかしたら、忙しかったことが知らず知らずのうちに「うん」という短い言葉に反映したのかもしれない。面と向かって話している表情が見えたりするのでこのような誤解や勘違いが起ることは少ないと思います。しかし、前述したように、LINEのようなチャットアプリでは絵文字やスタンプが無いとその時の感情が伝わらないので相手に誤解をあたえ、いじめなどにつながってしまいます。この問題を少しでも解決するためには、オンラインでのコミュニケーションにおいても相手の感情や意図を理解しようとする努力が必要です。

私自身も自分の発した言葉で人に不快感や誤解をあたえないように、相手の気持ちになり、一度考えてから言葉を発信することが出来るようにしていきたいです。また、SNSと上手く付き合ってより良い生活が送れるように自分の言葉に責任を持って普段使う言葉からしっかり意識して行動していきたいです。

今後SNSはどんどん進化して普及していくでしょう。間違った使い方をするような人が増えていかないよう、「一人一人が思いやる気持ちをもって気持ちよくSNSなどを使える世の中になればいいな」と思います。